

Daily Report (号外)

～6月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が7月2日に発表した6月の雇用統計では、非農業部門雇用者数が市場予想を上回る結果となり、経済正常化に伴う雇用回復が順調に進んでいることを裏付ける内容となりました。

非農業部門雇用者数は、前月比+85.0万人と市場予想(+72.0万人)を上回りました。前月分は+58.3万人(速報値+55.9万人)に上方修正されました。

業種別では、新型コロナワクチン普及によりサービス分野を中心に雇用が回復し、娯楽・接客業が前月比+34.3万人(前月+30.6万人)、小売業が同+6.7万人(同+2.7万人)、専門・ビジネスサービス業が同+7.2万人(同+3.6万人)と増加しました。教育・ヘルスケア業は同+5.9万人(同+5.9万人)と前月比同水準の結果となりました。

失業率は5.9%と市場予想(5.6%)を上回り、前月(5.8%)から悪化しました。

平均時給は前年比+3.6%となり市場予想(同+3.6%)と同水準でした。

(出所) Bloomberg

市場の反応

2日の米国株式市場は上昇しました。

米国株式市場は、6月の雇用統計の結果を受け、想定内の雇用回復ペースが継続するとの見方から、NYダウ平均株価は前日比+0.44%、S&P500指数は同+0.75%、ナスダック総合指数は同+0.81%と主要3指数とも揃って上昇しました。

米国債券市場では、雇用統計の結果が米連邦準備理事会(FRB)が金融緩和の縮小を急ぐほどの内容ではないと受け止められたことから買いが優勢となり、10年国債利回りは前日比▲0.03%の1.42%で引けました。

米ドル/円は、金融緩和縮小議論の後退を背景に円買い・ドル売りが優勢となり、前日比50銭程度円高・ドル安の1ドル=111.05円で取引を終えました。

原油先物市場は、「OPECプラス」で8月以降の減産規模を巡る協議が難航していることなどを受け、WTI先物8月限は前日比▲0.09%の1バレル=75.16ドルとなりました。



(期間) 2021/1/31～2021/7/2 (出所) Bloomberg

評価・今後の見通し

6月の非農業部門雇用者数は市場予想を上回り、FRBにとって政策変更へ一歩前進と言える結果となりました。ただし、依然コロナ禍前の2020年2月と比較して約676万人分の雇用が失われた状況にあり、FRBが金融緩和縮小の本格的な議論に入るためには、今後も持続的な雇用者数の伸びが必要と考えられます。

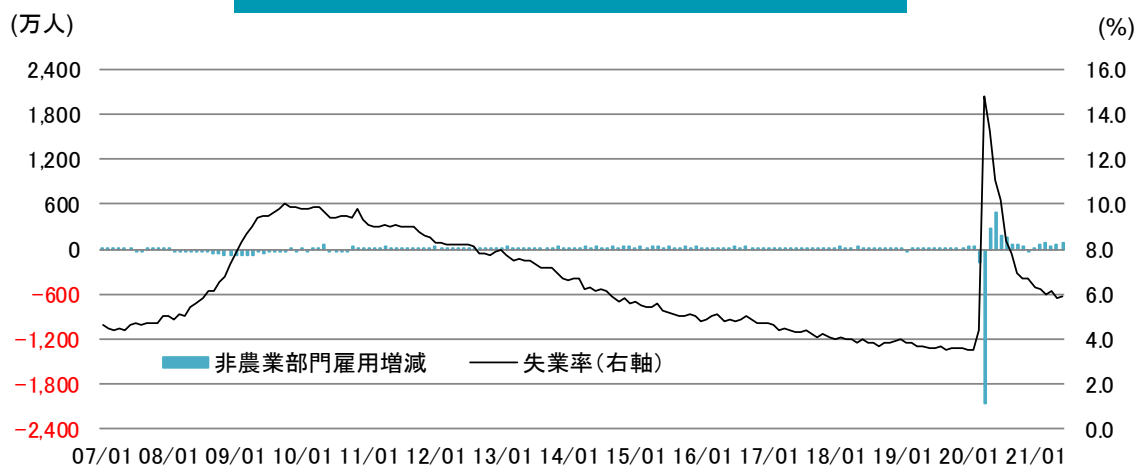
市場では金融緩和縮小への備えが既に広がっているとの見方もあり、今後更に雇用が回復した場合でも過度な金利上昇は想定しづらく、株式市場の大幅な調整局面が発生する可能性は低いと考えます。一方、消費者物価指数(CPI)など経済指標の結果次第では短期的な調整局面となる可能性には引き続き注意が必要です。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	21/1	21/2	21/3	21/4	21/5	21/6
非農業部門	23.3	53.6	78.5	26.9	58.3	85.0
鉱工業部門	-0.7	-2.0	15.9	-4.1	1.9	2.0
建設業	1.2	-5.7	9.3	-0.9	-2.2	-0.7
製造業	-1.8	3.5	5.1	-3.5	3.9	1.5
資源・鉱業	-0.1	0.2	1.5	0.3	0.2	1.2
サービス部門	12.9	64.2	56.5	26.7	49.7	64.2
卸売業	1.4	0.8	1.9	0.7	1.7	2.1
小売業	1.9	1.4	4.2	-2.2	2.7	6.7
輸送・倉庫業	0.6	3.6	4.3	-5.5	2.1	1.1
情報	1.3	0.6	0.5	1.1	2.8	1.4
金融	0.7	-0.7	1.3	1.7	-0.3	-0.1
専門・ビジネスサービス業	9.0	9.3	7.4	-7.9	3.6	7.2
人材派遣業	10.0	4.8	-0.6	-12.2	-0.7	3.3
教育・ヘルスケア業	-1.4	5.7	10.4	2.3	5.9	5.9
娯楽・接客業	-1.7	41.3	22.7	32.8	30.6	34.3
その他	-8.8	-2.6	4.4	15.9	1.4	2.3
政府部門	11.1	-8.6	6.1	4.3	6.7	18.8
失業率(%)	6.3	6.2	6	6.1	5.8	5.9
平均時給(前年比、%)	5.2	5.2	4.3	0.3	1.9	3.6

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2007年1月～2021年6月 (出所)Bloomberg